

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0171000607		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム えべつ		
所在地	〒069-0846 江別市大麻桜木町26番の5		
自己評価作成日	2021年2月26日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0171000607-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171000607-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和3年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転しコロナ禍で制限が多く外部との交流が出来ない中、入居者様の安心・安全・安らぎと、ご家族の安心を第一に、感染対策に努めています。

コロナ禍においても、『ご家族との時間を大切に』と考え交流が出来るよう、電話・手紙・LINEビデオ通話・窓越し面会など工夫しています。日常の様子はメールや手紙・LINEでお知らせするようにしています。

法人内で重点としている～人間力を高める～を基に、GHえべつでは、『思いやりの笑顔と優しい声掛け』を全職員が意識するよう努め、“倫理に基づいた介護力育成と、入居者様の人格を尊重した質の高い支援”を目標に掲げています。

入居者様の現在の身体機能や活動を維持できるような支援、意欲が高まるような支援を、法人内他職種とも共同して提供しています。

より良い支援の為知識・技術の習得に努め、医療との連携を密に看取り介護も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、令和2年5月にJR江別駅近郊から新築・移転し、幹線道路から緩やかな斜面を少し入った住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。近くには緑が多く、大きな公園やホームセンターもある。法人はグループホームを始め、医療系有料老人ホーム、訪問介護、通所介護、訪問看護など旭川市を拠点に札幌市や道内、首都圏にて積極的な高齢者介護の支援を行っている。当事業所は、母体が医療法人となし、24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的に対応している。また、法人内のPTと連携して生活機能向上連携支援を行っており、特に外部事業者のマッサージ師によるリハビリの運動や散歩など個別の支援も行っている。認知症高齢者介護の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスで職員全員で理念唱和し、「理念についてこう思う」の発表を行い皆で考えることで理念に沿った言動実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域自治会行事には参加できていないが、毎月広報誌を回覧をお願いして、GHを知ってもらう取り組みとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生受け入れは従来しているが、コロナ禍で行えていない。 地域への発信も出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で集会の形の運営推進会議は行えていない。入居者様の様子、事業所の取り組みの様子等を報告書の形で発進した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の広報誌を郵送したり、運営推進会議報告書を送付したり、ご家族様への発信と同じようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスにおいて日常のケアで拘束につながる言動はないか意見交換し、ケアの見直しなど確認しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	株健康会の研修(Skype)や、カンファレンスでの伝達研修で、言動の再確認と意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用されている方がいる。個々の必要性などカンファレンスで話し合い、ご家族の理解を得てを利用につながった方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の際に運営方針をお伝えし、契約は事前に書類をお渡しし内容を確認していただけるよう配慮している。入居当日には細かな説明で不安解消し、理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが投稿はない。管理者とご家族間でメールやLINEで連絡が取れるようになっており意見等を伺っている。職員にも情報を周知し反映できるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事あるごと意見提案を反映できるよう努めている。月1回の事業所会議においても、全体の方向性を示すようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価と年2回の面談の機会は確保されており、意見は上層部に伝え環境等改善に努めている。休日申請を出しやすいよう配慮されており、リフレッシュできる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	集会の形の研修は難しい状況。月1回の事業所会議においての勉強会や(株)健康会のリモートでの研修で学びの機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍で市内GHの職員交流は出来ていないが、管理者間の電話での情報共有するように努めている。感染症対策を含めサービス向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の情報確認をさせていただき、入居後も訴えや不安の様子のために、職員管理者がお話を伺い関係作り、安心確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族を預けるという思いを受け止め、日頃から不安や要望を率直に言って頂くようお願いしている。ご本人の体調や認知症の信仰の予測やリスク等も丁寧にお伝えするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職としての視点から、ご本人のために適切な支援を考えて実践し他の専門職との連携を密に取りより質の高いケアを提供していけるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カーテンの開閉や洗濯物たたみ、かんたんな調理片付け等各入居者様の出来る作業を見つけ、一緒に行うことで役割や生活感を感じ張りのある日々を過ごしていただくよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している「わいわい通信」にご家族あての手紙を担当職員が書き、様子を伝えご家族の協力も依頼している。 またLINE(写真)などを活用し様子を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ渦でご家族との面会がままならない為、LINE(ビデオ通話)などを活用し入居者様やご家族に喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の顔が見える食席配置、関りが持てる居室配置を行っている。 職員が間に入り会話を楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	月々、元ご家族様がかかわっている広報誌を送ってくださる。ことからも広報誌を送り交流は途切れていない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や動作から個人の思いやニーズを見つけよう努めている。 月1回のカンファレンスと毎日の申し送り等で情報共有し、臨機応変に対応するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人のフェイスシートや情報は常時閲覧できるようになっているので確認し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日ごとの情報を申し送りや記録で確認し、入居者様の支援に繋ぐよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、職員同士意見交換している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録申し送り以外でも職員間で情報交換、共有しながら業務に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常ご本人の筋力維や痛み軽減で訪問マッサージや歯科など多職種との連携を取るも、コロナ渦で感染対策の為利用できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦で、地域資源の活用は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おおあさクリニックとの連携で、24時間体制で相談が出来るようになっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナースラウンドや訪問診療で連携が取れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ体調などの記録を伝えし、入院中も情報を共有するよう努めている。 退院時は、病院からの情報を理解し、指示書に基づいた介護を行います。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りの資料をよく理解し御本人の不安を和らげる対応を心掛けている。 また、日々の体調の変化を記録し医療へ報告する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回のカンファレンスでその月ごとに担当を決め、救急通報のシミュレーション実施。また、オンライン内部研修にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時の一連の流れ、入居者様の誘導方法、救急処置の研修をGH内で行っている		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛け。 プライバシーに配慮した対応を常に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の動き、表情、言動をしっかり洞察し、傾聴を心掛け御本人の思いが伝わり安心できるよう対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	安全に配慮した中で、入居者様が居室・フロアー・で本多TVを見たり横になったり、お一人お一人のペースで過ごされるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴での保清・爪切り・髭剃りなど不十分な部分は介助させていただいている。 汚染時の下着・着衣交換と、毎日入居者様の生活歴に配慮し交換させていただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や盛り付け、食器拭きを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に応じ食事形態や食器の工夫を行っている。 必要に応じ食事介助を行い栄養や水の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各々に適した口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様のタイミングに合わせてトイレへのお誘いを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリーブオイルやオリゴ糖、スキムミルクを使用し、個々に合わせ工夫した飲み物提供を行っている。 水分摂取量も1500以上確保出来るよう働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	体調も考慮し、好みの湯温設定や入浴剤の香りでご入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。 手の届かないところ、不十分な所は介助させていただきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力体調を考慮し、日中も自室ベッドで休職していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬確認表を利用し服用までに数名の職員の確認があり、ふくようごの空袋の確認・取り置きをして間違いの無いよう努めている。 薬変更は申し送りにて、用法容量作用について周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	点繋ぎ、外気浴、屋内歩行などそれぞれの楽しみ方があり、気分転換できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が出来ないが、ご近所散歩での外気浴に「外の空気はうまい！」と言っていただけ。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出が出来ない。 必要なものはご家族と連絡を取り持参していただくか、職員が買い物に行く。 普段は金庫でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月ご家族様からラブレターが届く方がいる。 ご家族と相談して、LINEビデオ通話や電話でのお話をして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ飾りつけや、写真展示をしている。 食卓テーブルには、パネルを設置しコロナ感染症対策を行っている。慣れるまで混乱があったが馴染むよう声掛けに努めた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	点繋ぎなど一緒に楽しめるよう、入居者様の楽しみ方に合わせ席を決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターを置いたり、写真を飾ったり、安全確保に保護材を使用したり、個々に合わせ居心地の良い居室整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動しやすい家具配置で、安全に過ごす事が出来るよう配慮している。 移動の際は危険が無い目配りに努めている。		